

- 問1 日本の産業構造において、自然界から採取した資源を加工して製品を作る産業は「第二次産業」に分類されます。この第二次産業に含まれる業種の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2026年 岐阜県公立入試 類似)
1. 農業・林業 2. 金融業・保険業 3. 製造業・建設業 4. 運輸業・通信業
-
- 問2 滋賀県の琵琶湖におけるニゴロブナやセタシジミ、島根県の宍道湖におけるワカサギやシジミを対象に行われている「栽培漁業」について、この取り組みが行われる背景にある目的として最も適切な説明はどれですか。 (2023年 滋賀県公立入試 類似)
1. 水産資源を保護・回復させることで、将来にわたって持続可能な漁業を実現すること 2. 魚を狭い生け簀の中で集中的に育てることにより、餌の費用などの管理コストを削減すること 3. 限られた期間で大量の成魚を生産し、海外への輸出額を最大化させること 4. 自然の生態系を完全に人工的な管理下に置き、外来種の繁殖を促進すること
-
- 問3 現代日本の交通網において、道路網の整備や自家用車の普及、トラック輸送の拡大により、鉄道に代わって旅客輸送量と貨物輸送量の両面で最大のシェアを占めるようになった交通手段を何といえますか。 (2017年 岡山県公立入試 類似)
1. 船舶による輸送 2. 航空機による輸送 3. 新幹線による輸送 4. 自動車輸送
-
- 問4 日本においてエネルギー資源としてのメタンハイドレートの活用が注目されている理由と、実用化に向けた現在の状況を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2025年 島根県公立入試 類似)
1. 二酸化炭素を全く排出しないクリーンエネルギーであるため、地球温暖化対策の切り札として政府が全面的に導入を進めている。 2. 北米を中心に開発が進んでいる新しいエネルギー資源であり、日本でも輸入価格を抑えるための代替燃料として注目されている。 3. 日本の排他的経済水域内に豊富に存在するため国産資源として期待されているが、採取コストや環境への影響が課題となっている。 4. 浅い海域の地層に大量に埋蔵されていることが判明したため、既存の石油掘削技術をそのまま転用して安価に生産できる見通しが立っている。
-
- 問5 日本の農業において、太平洋沿岸などの温暖な地域の傾斜地が、みかんの栽培に適している理由として最も適当な説明を選びなさい。 (2016年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 標高が高い斜面では、夏の厳しい暑さを避けて冷涼な気候を好む果実を育てやすいため 2. 山間部は平地よりも霧が発生しやすく、果実が乾燥するのを防ぐのに適しているため 3. 傾斜があることで大規模な農業機械の導入が容易になり、生産効率が上がるため 4. 太陽からの直接の光に加え、海や石垣からの反射光を受けやすく、水はけも良いため
-
- 問6 1960年代以降の高度経済成長期において、東京などの大都市圏では、都心部の地価が高騰し、生活環境も変化したことで、居住人口が減少しました。その一方で、鉄道沿線の郊外には大規模な住宅地である「ニュータウン」が開発され、多くの人々が移り住んだため、都市全体の人口分布が環状（わっか状）になりました。このような人口移動の現象を何と呼びますか。 (2023年 福井県公立入試 類似)
1. 過疎化現象 2. ドーナツ化現象 3. 限界集落の形成 4. スプロール現象
-
- 問7 都道府県別の発電方法別発電量を示した統計において、千葉県や長崎県などの数値が低いのに対し、富山県（約9,300百万kWh）や長野県（約7,373百万kWh）の数値が突出して高くなる傾向にある発電方法として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 熊本県公立入試 類似)
1. 水力発電 2. 地熱発電 3. 原子力発電 4. 火力発電
-
- 問8 日本の重化学工業の分布において、千葉県、三重県、岡山県、大分県といった太平洋や瀬戸内海の沿岸部に、石油化学コンビナートが集中して立地している主な理由を説明したものとして適切なものはどれですか。 (2022年 福岡県公立入試 類似)
1. 内陸部での工場建設が法律で制限されたため、広大な土地を確保しやすい埋め立て地を中心とした臨海部へ拠点を移したため。 2. 原料となる原油のほぼ全量を海外からの輸入に頼っており、大型タンカーが直接接岸して効率よく荷揚げを行う必要があるため。 3. 製品の原料となる石炭が日本の沿岸部で大量に産出されており、採掘現場から直接工場へ搬入するのに都合がよいため。 4. 工場の稼働に必要な電力を大量に確保するため、水力が豊富な内陸部の急峻な河川に近い場所が選ばれたため。
-
- 問9 日本の輸出において、航空輸送を利用する主な品目として適切なものはどれですか。航空輸送貨物全体の約18%を占める代表的な品目と、それに次いで割合の高い品目の組み合わせを選びなさい。 (2017年 富山県公立入試 類似)
1. 液化天然ガス（LNG）と、石炭 2. 自動車と、鉄鋼 3. 木材と、パルプ 4. 半導体などの電子部品と、科学光学機器
-
- 問10 南アメリカのブラジルでは、広大な土地を利用してサトウキビの栽培が盛んに行われ、それを原料としたバイオ燃料が自動車の燃料として広く普及しています。このように食料としても利用可能な農産物をエネルギー資源として活用する動きについて、世界的な課題となっている点として適切な説明はどれですか。 (2020年 沖縄県公立入試 類似)
1. 燃料としての需要が急増することで、食料としての供給が不足したり、穀物価格が高騰して途上国の生活を圧迫したりする懸念がある 2. 原料となる植物を大量に育てることで大気中の二酸化炭素が吸収されすぎ、地球全体の気温が急激に下がる寒冷化の懸念がある 3. バイオ燃料は化石燃料に比べてエネルギー効率が非常に低いため、普及すればするほど世界中で深刻なエネルギー不足に陥る懸念がある 4. サトウキビの栽培には大量の農薬が必要であり、その結果、ブラジルの輸出農産物すべてが国際市場で取引禁止になる懸念がある
-
- 問11 岩手県（約59パーセント）や鹿児島県（約65パーセント）の農業産出額において、共通して過半数を占めている品目として正しいものはどれですか。 (2022年 三重県公立入試 類似)
1. 野菜 2. 畜産 3. 米 4. 果実
-
- 問12 都道府県別の農林水産物産出額の統計において、米の産出額が1078億円と突出して多く、一方で果実が89億円、漁業が27億円となっている都道府県として、最も適当なものを次から選びなさい。 (2024年 三重県公立入試 類似)
1. 秋田県 2. 三重県 3. 和歌山県 4. 宮城県
-
- 問13 少子高齢化が進み、人口ピラミッドにおいて生産年齢人口（15歳から64歳）の割合が減少していく日本の社会において、今後懸念される社会保障制度の課題として最も適切な説明はどれですか。 (2025年 沖縄県公立入試 類似)
1. 現役世代の減少により、年金や医療などの費用を支える一人あたりの負担が重くなる。 2. 若年層の人口が急増するため、義務教育の施設整備にかかる公的支出が大幅に増加する。 3. 労働力人口が過剰になることで、都市部における若者の失業率が深刻な社会問題となる。 4. 高齢者の割合が低下するため、介護サービスの需要が減り、関連する国家予算が余る。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 製造業・建設業	日本の産業は、自然に直接働きかける第一次産業（農業、林業、漁業）、原材料を加工する第二次産業（製造業、建設業、鉱業）、そしてサービスを提供する第三次産業（商業、運輸業、金融業など）の3つに大きく分けられます。第二次産業は、高度経済成長期に重化学工業を中心に急速な発展を遂げ、日本の経済を支える大きな柱となりました。
問2	答え 1 水産資源を保護・回復させることで、将来にわたって持続可能な漁業を実現すること	栽培漁業は、乱獲や環境の変化によって減少した水産資源を補うために行われます。稚魚が外敵に襲われやすい時期を人の手で守り、放流した後に自然界の食物連鎖の中で成長させることで、資源保護と安定した漁獲の両立を目指しています。選択肢にある「生け簀での管理」は養殖業の特徴です。
問3	答え 4 自動車輸送	高度経済成長期以降、高速道路などの道路網が全国的に整備されたことや、自家用車が一般家庭に広く普及する「モータリゼーション」が進んだことで、日本の輸送構造は大きく変化しました。かつては鉄道が輸送の主役でしたが、現在はドア・ツー・ドアの利便性を持つ自動車が、人（旅客）とモノ（貨物）の両方の輸送において最も高い割合を占めています。
問4	答え 3 日本の排他的経済水域内に豊富に存在するため国産資源として期待されているが、採取コストや環境への影響が課題となっている。	メタンハイドレートは日本の領海や排他的経済水域（EEZ）内の海底深くに存在しており、エネルギー自給率の向上に寄与する「次世代の国産資源」として期待されています。しかし、深海から効率よく取り出すためには高度な技術と多額の費用が必要であるほか、採取の際にメタンが漏れ出すことによる温室効果への影響や、海底地盤の変動といった環境面への懸念が解決すべき課題として残されています。
問5	答え 4 太陽からの直接の光に加え、海や石垣からの反射光を受けやすく、水はけも良いため	みかんは温暖な気候を好み、特に成長期には多く日光を必要とします。山の斜面は平地よりも日照時間を確保しやすく、さらに海に近い斜面では海面からの反射光、段々畑の石垣からの反射光も利用できます。また、傾斜地は水が溜まらずに流れ落ちる「水はけ」が良い状態を保てるため、糖度の高い果実が実ります。
問6	答え 2 ドーナツ化現象	高度経済成長期、都市部では経済活動の活性化により土地の価値が急上昇し、一般の人々が都心に住居を持つことが困難になりました。その結果、人々は地価が比較的安く、住環境の整った郊外へと移り住みました。これにより、地図上で人口密度を表した際に都心部が空洞化し、その周辺部が膨らむ様子がドーナツの形に似ていたことからこの名称がつけました。
問7	答え 1 水力発電	富山県や長野県は、中部地方の険しい山岳地帯に位置しており、急峻な地形と豊富な降水量（雪解け水を含む）に恵まれています。水力発電は河川やダム落差を利用して発電を行うため、こうした自然条件を備えた山岳県で発電量が多くなる特徴があります。一方、千葉県などの大消費地に近い臨海部では、輸入燃料を利用する火力発電の割合が高くなります。
問8	答え 2 原料となる原油のほぼ全量を海外からの輸入に頼っており、大型タンカーが直接接岸して効率よく荷揚げを行う必要があるため。	日本の石油化学工業は、原料である原油のほとんどを中東などの海外からの輸入に依存しています。そのため、巨大な原油タンカーが直接接岸できる深い港を持ち、そのまま工場へと原料を供給できる臨海部が立地に最も適しています。このような理由から、千葉、神奈川、三重、岡山、山口、大分など、太平洋ベルト沿いの主要な港湾部に大規模な石油化学コンビナートが形成されました。
問9	答え 4 半導体などの電子部品と、科学光学機器	航空輸送は、小型・軽量でありながら非常に高価な製品の輸送に強みを持っています。具体的には、現代の産業に不可欠な半導体などの電子部品や、高度な技術を要する科学光学機器（カメラや医療機器など）が中心です。これらの製品は、市場の需要変化に合わせて迅速に輸送する必要があるため、高速な航空輸送が利用されています。一方で、自動車や資源などは、重量が重く大量輸送が前提となるため、主に船舶による海上輸送が担っています。
問10	答え 1 燃料としての需要が急増することで、食料としての供給が不足したり、穀物価格が高騰して途上国の生活を圧迫したりする懸念がある	バイオ燃料の原料にはサトウキビ、トウモロコシ、大豆といった食料にもなる作物が使われます。これらを燃料生産に回しすぎると、食用としての市場価格が上昇してしまいます。特に食料を輸入に頼る貧困層や発展途上国の人々にとって、食料価格の高騰は生存に関わる深刻な問題となるため、環境対策と食料安全保障のバランスが議論されています。
問11	答え 2 畜産	岩手県や鹿児島県では、広大な土地や、耕作には必ずしも適さない地形（岩手県の北上高地や鹿児島県のシラス台地など）を有効に活用するために、肉用牛や豚、鶏などの飼育が盛んに行われています。その結果、両県ともに農業産出額の半分以上を「畜産」が占めるという共通した特徴を持っています。
問12	答え 1 秋田県	東北地方の日本海側に位置する秋田県は、広大な平野や盆地、夏場の長い日照時間を活かした稲作が非常に盛んな地域です。提示された統計において米の産出額が1000億円を超えている点は、全国有数の「米どころ」としての特徴を明確に示しています。他の選択肢の和歌山県は果実、三重県や宮城県は漁業の比重がより高い傾向にあります。
問13	答え 1 現役世代の減少により、年金や医療などの費用を支える一人あたりの負担が重くなる。	社会保障制度は、現役世代が納める保険料などで高齢世代を支える仕組みが基本となっています。少子高齢化によって人口ピラミッドの土台となる現役世代の割合が縮小し、頂上付近の高齢者の割合が拡大すると、支え手一人あたりの経済的負担が大きくなり、制度の維持が難しくなるという課題が生じます。